

精神障害領域における青年期・成人期の発達障害者 支援ツール開発のための予備調査

飯田 妙子*） 藤田 さより
聖隷クリストファー大学

背景

- 青年期以降に自閉スペクトラム症（ASD）と診断される患者が増加傾向にあり、作業療法士（OTR）がASDに関わる機会も増加
- しかし、青年期ASDをはじめとした発達障害に対する十分な支援実績は蓄積されていない
- そのため、支援体制の整備や専門職向けの支援プログラムの必要性が指摘されている

目的

- 精神障害領域における青年期発達障害の実態、発達障害に関わるOTRの現状、介入における課題等を把握し、必要な支援について明らかにする
- 本研究の結果を踏まえ、今後、青年期発達障害の特性を踏まえたOT評価・プログラムの開発等、現状に基づいた具体的な支援方法について検討する

方法

- OTRが在籍している静岡・愛知県内の精神障害領域の病院・施設にアンケート（無記名）を郵送にて配布
- 情報の偏りを避けるため、回答者は各病院・施設1名とした
- 聖隷クリストファー大学倫理委員会の承認を得てから実施した（承認番号21040）

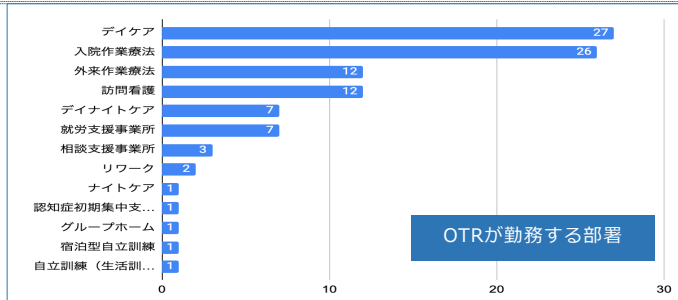
結果

- 87施設に送付 → 41施設より回答（回収率47.1%）

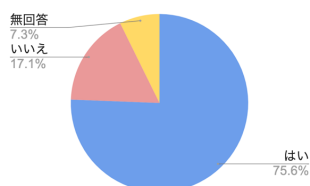
回答施設の基本情報

- 在籍するOTR数 平均5.7名
- 発達障害に関わるOTR数 平均3.6名
- 回答者の経験年数 平均14.2年

施設種別	
病院・診療所	35
福祉施設	4
訪問	1
NPO法人	1



- 設問①：OTRが介入・支援に取り組み、得られた成果はありましたか？



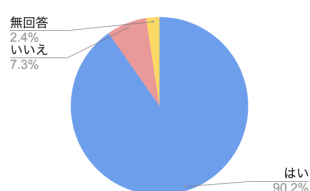
【はいと回答した理由】

- ・就労等のステップアップに結びついた
- ・周囲との関係性の改善、トラブルの減少等が結果として見られた
- ・本人と共有した目標・課題に対して、直接介入・支援することで、自己理解の深まりや適応に必要な工夫、フォローを得ることに繋げることができたため

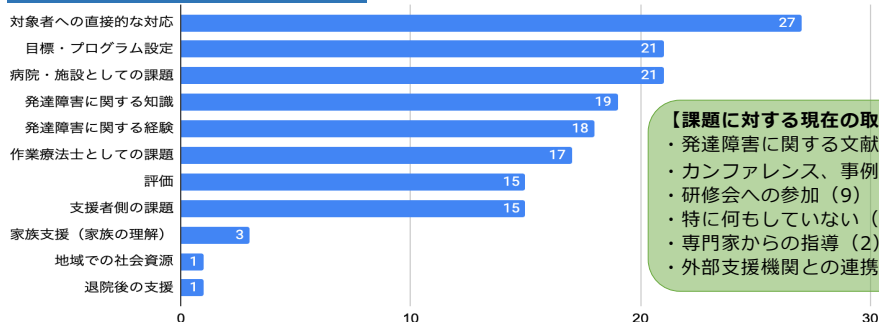
【いいえと回答した理由】

- ・変化の程度が測りにくい
- ・大きな変化や結果は難しい
- ・汎化が進みにくい

- 設問②：現在、発達障害者支援に関して、感じている課題はありますか？



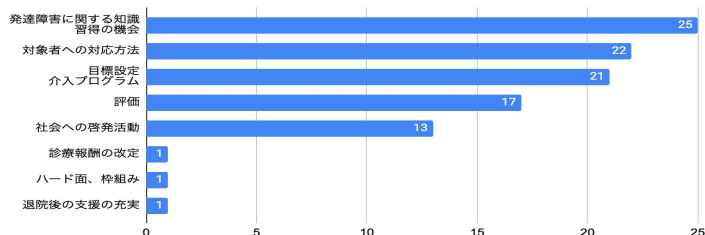
感じている課題（複数回答あり）



【課題に対する現在の取り組み】

- ・発達障害に関する文献検索（17）
- ・カンファレンス、事例検討（13）
- ・研修会への参加（9）
- ・特に何もしていない（7）
- ・専門家からの指導（2）
- ・外部支援機関との連携（2） など

- 設問③：今後、精神障害領域において発達障害に関することで必要だと感じていることはありますか？（複数回答あり）



【自由記載（一部）】

- ・青年期発達障害の作業療法介入の研修
- ・事例検討を通じた知識の習得
- ・ある程度の関わり方の均一性を持たせるためのマニュアル
- ・心理・知的検査だけでなく、生きづらさなどに着目した評価
- ・ケースにあわせた実践を他職種に分かりやすく説明する方法
- ・この課題がより社会に認知されるようになってほしい など

考察

- 病院・施設内で専門的な実践経験や情報を得る機会が少ない現状が明らかとなった
- 現状に対する問題意識を持ち、知識修得の機会や対応方法・目標設定・プログラムなど一連の作業療法介入に関するマニュアルの必要性を感じる意見が多く見られた
- 対象者に合わせた支援を、どの病院・施設でも一定の質を保って提供できるような研修の機会、マニュアルの開発等が必要であると考え